

# 浜田市立第三中学校（平成30、令和元年度）

## 1 研究主題

「自己有用感をもち、安心して自分の思いを表現できる生徒の育成」

## 2 主題設定の理由

本校は、生徒数274名、各学年3クラス、特別支援学級2クラスの学校である。明るく活発な生徒が多く、学校行事や部活動に熱心に取り組む姿が見られる。一方で、自己表現が苦手な生徒、自分に自信がなく主体性に欠ける面がある生徒も少なくない。

本校では、平成30年5月の研究職員会議で、本校生徒のよさや課題、生徒に身に付けさせたい力などについてワークショップ形式の話合いをもち、共通理解を図った。その際に見えてきた生徒のよさや強みは「明るく元気である」「人懐っこい」「部活動を頑張る生徒が多い」「あいさつができる」「分からないことが分からないと言える」などであった。

一方、課題や弱みは「人の話が聞けない」「がまんができない」「集団での行動が苦手」「自分の気持ちをうまく伝えられない」「すぐあきらめる」などであった。

職員の話合いで出されたこれらの課題は、全国学力・学習状況調査や県学力調査の意識調査でも現れている。平成30年度の全国の調査において、「自分にはよいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国や県の平均を下回っている。また、「学校の規則を守っている」の質問への肯定的な回答は、全国や県の平均をさらに大きく下回っている。

生徒の実態や調査結果から、生徒の課題や弱みの背景のうち、大きなものは自己有用感の低さであると考えた。自己有用感が低いため、自分に自信がなく、人間関係づくりを苦手と感じる生徒が多くいる。その結果、よりよい集団が育ちにくい現状にあり、そのような集団においては、規範意識も向上しにくいことが考えられる。

そこで、本校生徒の課題や弱みを克服していくために、自己有用感を高めていくことが必要であると考えた。国立教育政策研究所の滝充総括研究官は、「自分がしたことを感謝されてうれしかった、自分は頼りにされている、自分も誰かの役に立っている、みんなから認められている」という感情を自己有用感としている。さらに、規範意識の基礎となるのが自己有用感であるとも述べている。

自己有用感を基盤として、他者を大切にしようとする意識が育まれる。それにより、自他を大切にするとよりよい人間関係が構築され、規範意識の高い、だれもが安心して過ごせる集団が形成される。そのような集団の中で初めて、生徒達は自分の思いや考えを安心して表現できるようになると推測する。

そこで、上記の研究主題を定め、すべての教育活動を、自己有用感の育成をめざした取組に視点をおいて行うこととした。自己有用感を育成することにより、自分を大切に、他の人を大切にしようとする態度や意欲を身に付けていくことができる。そして、このことは島根の人権教育がめざす「差別をしない生き方」ができる力を育成することにつながると考え、本校における人権教育を推進することとした。

### 3 自己有用感とめざす生徒像

#### (1) 自己有用感について

国立教育政策研究所は、自己有用感を「人の役に立っている」「人に喜んでもらった」「人から認められている」という感情とし、自分に対する他者からの評価が中心であるとしている。そして、相手の存在なしには生まれてこない点で、自分に対する自己評価が中心の「自尊感情」や「自己肯定感」等の語とは異なるとしている。

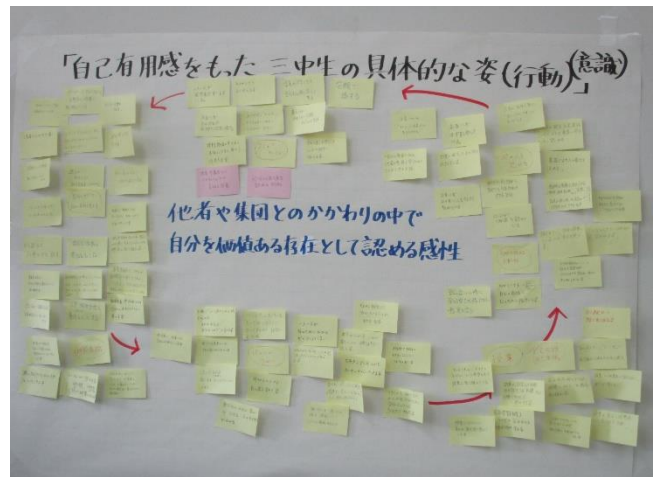
これらを参考にし、本校では研究職員会議において『「自己有用感」を共有しようワーク』を行った。それぞれの職員が抱く「自己有用感をもった三中生の姿（意識・行動を含む）」を付箋に書き出し、整理することで、「三中が考える自己有用感とは何か」を明らかにしていった。このワークの結果として、本校では「自己有用感」を以下のように定義した。

#### 浜田市立第三中学校が定義する自己有用感

「他者や集団とのかかわりの中で自分を価値ある存在として認める感性」

このワークにおいて、職員から出された「自己有用感をもった三中生の姿（意識・行動を含む）」は、次のような姿であった。

- 集団の中での自分の役割を果たす姿
- 規範意識が高い姿
- 自分で判断し、当たり前が当たり前に行える姿
- リーダーを中心にまとまった姿、集団
- コミュニケーション力が高い姿
- 自ら意欲的に学習に取り組む姿
- 向上心を持ち、目標に向かって努力する姿
- 自己実現する姿
- 自分を認め、自分を大切にする姿
- 他の人を認め、他の人のために行動する姿



<職員による付箋ワーク>

#### (2) めざす生徒像

本校生徒の実態や職員の話合いを踏まえ、「めざす生徒像」を次のように設定した。

- 善悪を判断し、我慢する心を培い、よりよい自分の姿を追い求めようとする生徒
- 自信を持ち、主体的に表現しようとする生徒
- 友だち、先生、保護者、地域の人々の思いや願いを受け止め、感謝の気持ちを持ち、共に高まろうとする生徒

## 4 研究仮説

自己有用感の獲得は、自分を大切に、他者を大切にできる態度や意欲に結びつく。そして、自己有用感の高い生徒たちの集団は、だれもが安心して過ごせる集団である。そのような集団だからこそ、生徒たちは安心して、自信をもって自分の思いや考えを表現できると推測する。

自己有用感を高めるためには生徒たちが認められる機会をたくさんつくることであると考えられる。自分を認められることで自信が生まれ、そのことが意欲につながっていくであろう。

そこで、本校では、生徒や保護者、地域の実態を考慮し、次のような仮説を設定した。

### (1) 授業づくり

学校生活の大半をしめる授業で、一人一人が分かる喜びを実感し、仲間と共有することができれば、自己有用感が高まるとともに、学習意欲が向上し、安心して自分の思いを表現する生徒が育つであろう。

### (2) 基盤づくり

他者や集団とのかかわりの中で、互いを認め合い、一人一人が達成感や充実感、所属感や連帯感を味わう活動を充実させれば、自己有用感が高まり、安心して自分の思いを表現する生徒が育つであろう。

### (3) 地域連携

学校と家庭・地域が連携を深め、情報交換等をとおして育てたい生徒像を共有するとともに、さまざまな活動や授業等に地域の人材を活用したり、地域における行事やボランティア活動への生徒の参加を促進したりすれば、自己有用感が高まり、安心して自分の思いを表現する生徒が育つであろう。

## 5 研究内容

### (1) 一人一人の学びを保障する授業づくり

○子どもたちが主体的に学び、分かる喜びを実感し、それを共有できる授業の工夫

- ・授業の見通しを示し、本時のめあてを明確にする。
- ・授業のまとめと振り返りを充実させる。
- ・指導者の肯定的評価言を多く取り入れる。

頑張っている姿を認めるプラスの声かけ（結果より過程を認める声かけ）

「いいね」「その調子」「できたね」「がんばっているね」「なるほど」など

- ・ペア学習やグループ学習などの学び合い学習を工夫し、自分の言葉で表現する場や機会をもつ。

○人権集会を軸とした人権学習

- ・年間3回の人権集会（ニコニコフォーラム）の事前学習、事後学習を工夫する。
- ・各教科等における人権学習の年間カリキュラムに基づき、計画的に人権学習を行う。

## (2) 互いの人権が尊重される基盤づくり

### ○安心して過ごせる集団づくり

- ・互いのよさやがんばりを見つめる場面や機会を意図的・計画的に取り入れる。
- ・話し合い活動を充実させ、よりよい学年・学級集団づくりを行う。
- ・体育祭や生徒集会（ニコニコ集会）、生徒会活動における異学年交流を工夫する。
- ・体育祭や合唱コンクールなどの学校行事等への意欲づけと振り返り活動を工夫する。
- ・生徒会活動（事業委員会等）の取組をとおして、自治意識や規範意識の向上を図る。
- ・個別支援を充実させるため、教育相談やアンケートQ U等を活用する。

### ○安心して過ごせる環境づくり

- ・教室、トイレ、ロッカー、掲示物などの物的環境を整備する。
- ・望ましい「隠れたカリキュラム」を実現する職員集団をめざす。  
(人を人として大切に思う心、連携と協力)

## (3) 一人一人の学びを支える家庭・地域との連携

### ○学校と家庭が連携した教育活動の推進

- ・授業や行事等の学校公開を積極的に行う。
- ・PTA活動を推進する。
- ・学校だより、PTAだより等による広報活動を推進する。

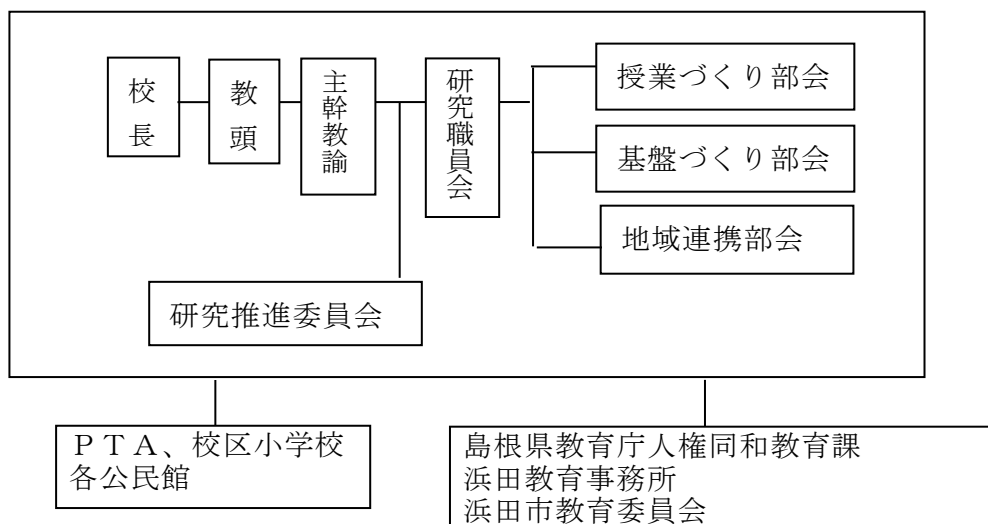
### ○小・中・高の連携推進

- ・子ども一人一人の継続的支援のために、積極的に情報交換を行う。

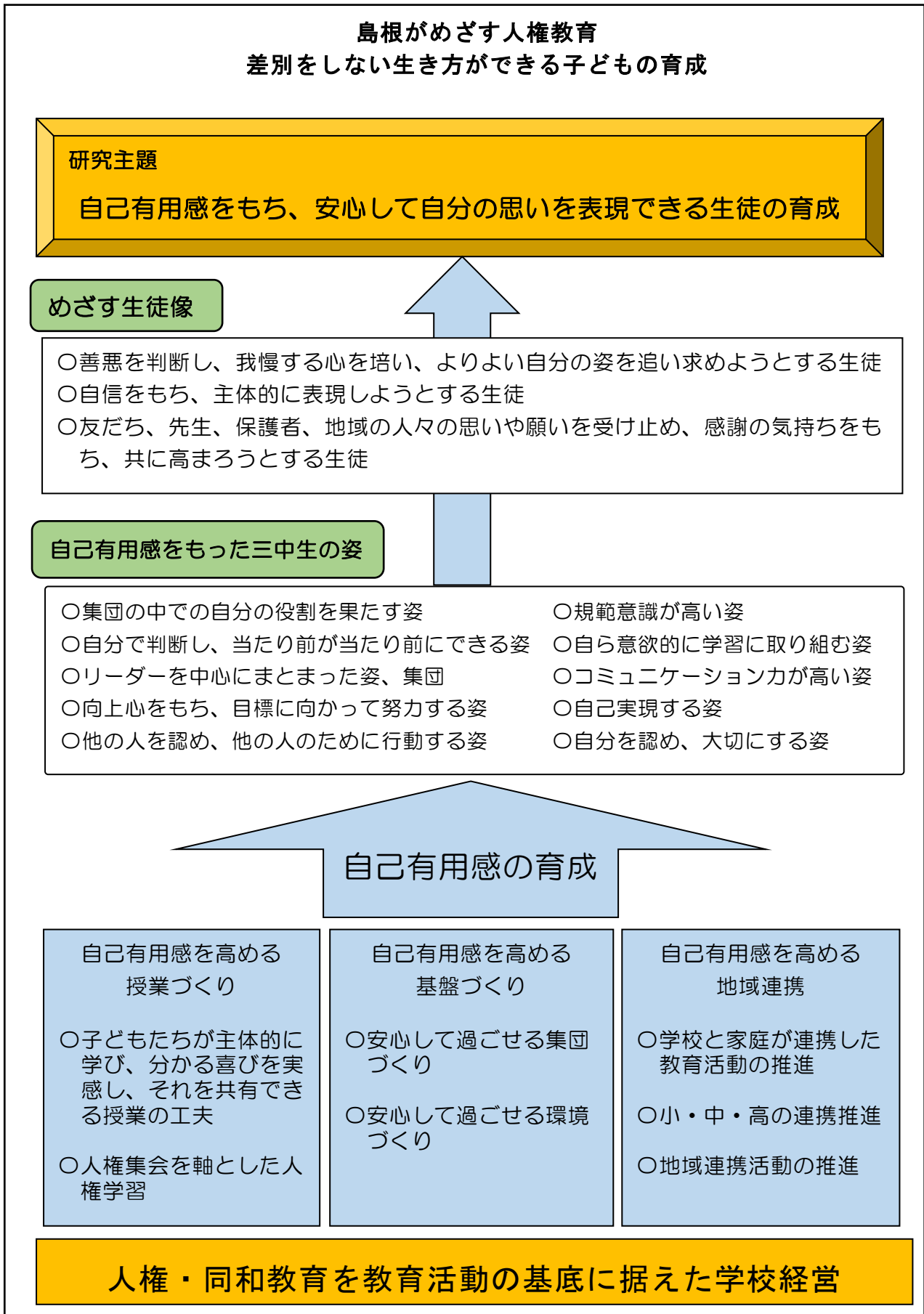
### ○地域連携活動の推進

- ・さまざまな教育活動に地域人材を積極的に活用する。
- ・地域行事やボランティア活動に参加し、大人に認められる機会を増やす。

## 6 研究推進組織



## 7 研究の全体構想図



## 8 研究の経過

時 期	研 究 内 容	備 考
平成30年 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会①(4/11)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究方針及び研究推進計画、研究組織等の協議</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議①(4/16)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題、研究推進計画、研究組織等の共通理解</li> <li>・人権・同和教育全体計画、年間指導計画の検討</li> </ul> </li> <li>○各部会(随時)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の推進計画作成</li> </ul> </li> <li>○PTA評議員会(4/19)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指定校についての説明及び年間計画の確認</li> </ul> </li> <li>○研究推進委員会②(4/27)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の推進計画について協議</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名  参加者26名   参加者25名  参加者5名
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会③(5/16)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回人権集会について協議</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議②(5/31)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の推進計画の共通理解</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名  参加者26名
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回アンケートQU(6/13)</li> <li>○研究推進委員会④(6/20)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回訪問指導について協議</li> </ul> </li> <li>○第1回人権集会(6/29)               <ul style="list-style-type: none"> <li>講師：中村清志氏(松江市在住)</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名  参加者360名
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回訪問指導 3年4組 道徳科(7/2)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究</li> <li>・研究に関する指導・助言</li> </ul> </li> <li>○学校評価第1回アンケート(職員対象)</li> </ul>	参加者35名
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部会(随時)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の実践の成果と課題、2学期の取組検討</li> </ul> </li> <li>○研究推進委員会⑤(8/6)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修についての協議</li> <li>・2学期の取組について共通理解</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議③：職員研修(8/23)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和問題研修</li> <li>講師：山崎壽松氏</li> </ul> </li> <li>○アンケートQUの分析・協議</li> </ul>	参加者5名  参加者28名
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育祭(9/8)</li> <li>○三瓶宿泊研修(1年)(9/19~20)</li> <li>○修学旅行(2年)(9/19~21)</li> <li>○職場体験学習(3年)(9/19~21)</li> <li>○研究推進委員会⑥(9/13)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回訪問指導について協議</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回訪問指導 2年1組 学級活動(10/1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究</li> <li>・研究に関する指導・助言</li> </ul> </li> <li>○校内合唱コンクール(10/27)</li> <li>○第2回アンケートQU(10/12)</li> </ul>	参加者35名
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑦(11/2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回訪問指導について協議</li> <li>・第2回人権集会について協議</li> </ul> </li> <li>○第3回訪問指導 3年2組 道徳科(11/19) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究</li> <li>・研究に関する指導・助言</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名 参加者35名
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回人権集会(12/2) <ul style="list-style-type: none"> <li>講師：角岡伸彦氏（大阪市在住）</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議④：職員研修(12/10) <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和問題研修</li> <li>講師：椿孝二氏</li> </ul> </li> <li>○各部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の実践の成果と課題、3学期の取組検討</li> </ul> </li> <li>○学校評価第2回アンケート（職員、生徒、保護者対象）</li> </ul>	参加者360名 参加者28名
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑧(1/10) <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回訪問指導について協議</li> </ul> </li> <li>○第4回訪問指導 1年3組 学級活動(1/28) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究</li> <li>・研究に関する指導・助言</li> </ul> </li> <li>○アンケートQUの分析・協議</li> </ul>	参加者5名 参加者35名
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑨(2/18) <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次のまとめ</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑩(3/4)</li> <li>○卒業式(3/10) <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の計画について協議</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議⑤(3/18) <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次のまとめと2年次の計画について共通理解</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名 参加者26名
平成31年 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会①(4/3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究方針及び研究推進計画、研究組織等の協議</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議①(4/4) <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題、研究推進計画、研究組織等の共通理解</li> <li>・人権・同和教育全体計画、年間指導計画の検討</li> </ul> </li> <li>○各部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の推進計画作成</li> </ul> </li> <li>○研究推進委員会②(4/16) <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の推進計画について協議</li> <li>・第1回訪問指導に向けての協議</li> </ul> </li> </ul>	参加者5名 参加者28名 参加者5名

4月	○P T A評議員会(4/17) ・研究指定校についての説明及び年間計画の確認	参加者25名
令和元年5月	○研究職員会議②(5/13) ・各部会の推進計画の共通理解 ○第1回訪問指導 2年2組 道徳科(5/20) ・授業研究 ・研究に関する指導・助言 ○研究推進委員会③(5/29) ・学習指導要領解説特別活動編を用いての研修	参加者26名 参加者35名 参加者7名
6月	○第1回アンケートQU(6/12) ○研究推進委員会④(6/17) ・第2回訪問指導についての協議 ○第2回訪問指導 3年2組 学級活動(6/24) ・授業研究 ・研究に関する指導・助言	参加者5名 参加者35名
7月	○第1回人権集会(7/4) 講師：坂本義喜氏(熊本県在住) ○研究推進委員会⑤(7/11) ・第3回訪問指導についての協議 ・研究紀要作成についての協議 ○第3回訪問指導 1年2組 学級活動(7/16) ・授業研究 ・研究に関する指導・助言 ○学校評価第1回アンケート(7/18) ○研究推進委員会⑥(7/30) ・3年学級活動指導案検討	参加者300名 参加者5名 参加者35名 参加者4名
8月	○研究推進委員会⑦(8/1) ・1年学級活動指導案検討 ○各部会 ・1学期の実践の成果と課題、2学期の取組検討 ○研究推進委員会⑧(8/9) ・2年道徳科学習指導案検討 ○研究推進委員会⑨(8/19) ・3年学級活動指導案検討 ○研究職員会議③：職員研修(8/20) ・人権・同和問題研修 講師：佐々木幸子氏 ○研究推進委員会⑩(8/22) ・2年道徳科指導案検討 ○研究推進委員会⑪(8/26) ・1年学級活動指導案検討 ○アンケートQUの分析・協議	参加者4名 参加者4名 参加者5名 参加者28名 参加者4名 参加者5名



9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑫(9/10) <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年道徳科学習指導案検討</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会の運営、研究紀要、指導案の確認</li> </ul> </li> <li>○体育祭(9/7)</li> <li>○三瓶宿泊研修(1年)(9/18~19)</li> <li>○修学旅行(2年)(9/19~21)</li> <li>○職場体験学習(3年)(9/18~20)</li> </ul>	<p>参加者5名</p> <p>参加者28名</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第4回訪問指導 2年2組 道徳科(10/7) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究</li> <li>・研究に関する指導・助言</li> </ul> </li> <li>○研究推進委員会⑬ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会の運営</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議⑤ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会の運営</li> </ul> </li> <li>○校内合唱コンクール(10/26)</li> </ul>	<p>参加者35名</p> <p>参加者5名</p> <p>参加者28名</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回アンケートQU(11/1)</li> <li>○研究推進委員会⑭ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会運営の最終確認</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議⑥ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会最終打合せ</li> </ul> </li> <li style="border: 1px solid black;">○研究発表大会(22日) <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業</li> <li>・第2回人権集会</li> <li>・研究報告会、研究紀要の配布</li> </ul> </li> </ul>	<p>参加者5名</p> <p>参加者28名</p> <p>参加者120名</p>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の実践の成果と課題、3学期の取組検討</li> </ul> </li> <li>○学校評価第2回アンケート</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑮ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめについて協議</li> </ul> </li> <li>○研究職員会議⑦ <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の研究のまとめ</li> </ul> </li> <li>○アンケートQUの分析・協議</li> </ul>	<p>参加者5名</p> <p>参加者28名</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進委員会⑯ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ</li> </ul> </li> <li>○第5回訪問指導 1年3組社会科(2/21)</li> <li>○研究職員会議⑧ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめと来年度に向けて</li> </ul> </li> <li>○研究の報告</li> </ul>	<p>参加者5名</p> <p>参加者28名</p> <p>参加者28名</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業式(3/10)</li> </ul>	

## 9 研究の成果と課題

### (1) 授業づくりについて

#### 【成果】

- ・本時のめあては授業の最初に必ず組み入れることにしている。また、授業の最後には必ず振り返りを行い、学んだことを書かせるようにしている。これらを継続することで学習意欲が向上してきている。
- ・授業の中で、話し合う時間を必ず2～3回設定し、お互いの考えを深めるようにしたことによって新たな気づきにつながっていた。
- ・各教科で授業担当が生徒のよいところを見つけてプラスの声かけをしていることが学習意欲の向上につながっている。
- ・作品づくりや自由調理など、自分の創作したものを発表する機会をもつことで、自分の工夫したことなどを伝え合い、他の人の考えや工夫を知ることによって、生活に生かすことにつながったと思う。
- ・授業の内容を最初に示すことで、今日、何を学ぶのか見通しをもって授業に取り組むことができるようになった。各教科で、めあてや見通しは定着している。
- ・単元ごと、あるいは1時間ごとの授業の見通しがもてる工夫が習慣化してきている。
- ・ニコニコフォーラムを継続的に行うことで、学年が上がるにつれて人への思いが高まっている。
- ・ペア活動やグループ活動を通して、お互いに「Great!」「Wow!」「Me, too!」などの肯定的なリアクションを伝え合うことで、自己有用感が高まってきていると感じる。
- ・主体的に学習に向う生徒が増えてきた。お互いに教え合う姿も見られるようになった。
- ・県学力調査や全国学力調査における「普段、家庭学習を毎日1時間以上している」現3年生の割合は、1年時は34.4%、2年時は30.7%、3年時は48.8%であったことから、学習意欲が高まっていることがうかがえる。

#### 【課題】

- ・ワークシート等を工夫し、振り返りの時間を十分に確保する必要がある。
- ・人の話を「聞く」のではなく、「聴く」態度を身につける仕掛けが必要である。「聞く」ために、話す人の方を見る、顔を見る、静かにするなど、外見的態度は分かっているが、「どのように聴くか」という本質的な部分ができない生徒が増えており、それでは安心できる人間関係がもてなくなるのではないかと懸念する。
- ・語彙力、文章を書く力を高めていく必要がある。
- ・アンケートQU「授業の内容は理解できる」の肯定的回答の数値結果がまだ低いことから、授業において分かる喜びを実感しづらい生徒への手立てをさらに工夫していく必要がある。
- ・学習規律の面において、授業は全員の学びの場であることを誰もが意識するようにしていく必要がある。

## (2) 基盤づくりについて

### 【成果】

- ・依然として生徒間のトラブルは起きつつも、学校全体としては徐々に落ち着いてきている。
- ・異学年交流は、それぞれの学年としての姿を見せようと頑張ったり、お互いに認め合ったりしており、とてもよい雰囲気ができている。
- ・1年生では、「よいところメモ」という活動をし、クラスメイトのよいところを探す意識が芽生えてきた。
- ・話し合い活動をとおして意見をもち、述べようとする気持ちは育ってきている。3～4人グループが話し合いが進むようだった。
- ・3年生が総体の応援や体育祭など、一生懸命に応援したり、練習に取り組もうとしたりする姿を見せてくれたことで、下級生は自分も頑張ろうと思う意識が高まっていた。
- ・行事等の時に、がんばりを認める取組みを工夫し、認め合う活動が充実していたことが、生徒の自己有用感を高めていた。
- ・行事ごとに事業委員会での役割分担があり、自分たちも運営に一役かっているという意識が芽生えている。
- ・生徒の行事写真等の掲示物を生徒や来校した保護者がよく見ている。頑張りを認められ、うれしそうな様子がうかがえる。また、お互いの活躍の様子を知るよい機会となっており、認め合うことにつながっている。
- ・ニコニコ集会やいじめアンケート、Q Uなどを通して、自分のこと、クラスのこと、学年のことなどを考える機会が定期的にあったことがよかった。生徒達も真剣に記入していた。
- ・黒板と掲示物にこだわりをもって環境づくりに心がけたこと、学級やチームへの貢献をテーマとして常に働きかけたことで、生徒達が育っていると感じる。
- ・現3年生の全国学力調査における質問「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」に肯定的回答をした生徒の割合は県や全国より上回っていることから、人を大切に思う気持ちが育ちつつあることが伺える。(三中:96.6%、全国:95.1%、県:95.7%)

### 【課題】

- ・自治意識や規範意識については、まだまだ低いと感じる。間違っていることに対して、意見が言えるようにしていく必要がある。
- ・思春期という時期には、誰もが意欲的になる議題や題材を設定することは難しい。消極的、無気力な態度に対して、人間関係が表面的になるところを良い方向にもっていきける指導力が教員に求められる。
- ・自分を客観視できない幼い面があり、自分と違うものを認めるという力はまだ弱い。自分たちで課題を解決していこうとする自立へ向けての力を育てていく必要がある。
- ・いじめアンケートやQ Uなど、結果の分析まではできたが、活用まではうまくできていないことが課題である。

### (3) 地域連携について

#### 【成果】

- ・部活動として、地域の公民館行事に参加することで、生徒が主体的に意欲をもって活動することができた。地域の方にどのような活動をしているのか知ってもらうよききっかけとなった。
- ・調理実習や特別支援教育関係では、公民館主事と連携し、人材を含め、学習のねらいに迫れるよう、コーディネートしてもらうことができた。生徒達は授業をとおして地域の方々から学び、そして地域の方々から認めてもらうことで自信をつけたようであった。
- ・給食試食会などの学校公開日に参加する保護者が増え、学校の雰囲気や生徒の様子を実際に見てもらうことで、学校と家庭との連携がより深まるきっかけとなっており、そのことが子どもの自己有用感の育成には有効であった。
- ・部活動単位で、ボランティアに参加するなど、地域に出かける機会があったことは、生徒の自己有用感を高めるうえで、大変有効であった。海岸清掃など、地域の方からお礼を言われて、うれしそうな顔をしていた生徒の様子が印象的だった。
- ・地域ボランティアでの生徒の様子や学校の行き帰りの生徒の様子、学校行事での生徒の様子、学校だより等での情報をとおして、地域や保護者の方々から「三中の生徒がよく挨拶をしてくれる」「ボランティアに来てもらって助かった」「学校の雰囲気がよくなっている」などの声をいただいている。それらの声を生徒が直接聞いたり、間接的にほめてもらったりしたことは自己有用感の育成につながっていた。
- ・授業や行事等の学校公開や学校だよりの発行をとおして、保護者や地域の方々には学校の教育活動に理解と協力をしていただいたことは、子どもたちが認められる機会を増やし、自信をもつことにつながった。

#### 【課題】

- ・地域の伝統行事等、地域の方々と連携した授業づくりがもっとできるようにしていきたい。
- ・人権集会やPTA研修会への保護者参加が多いとは言えないため、さらに保護者の参加を促していく必要がある。

以上のことから、「授業づくり」「基盤づくり」「地域連携」のそれぞれの研究仮説に基づいて実践してきたこれらの取組は一定の成果があったと言える。次に示すデータは、県学力調査や全国学力調査における質問（自己有用感に関わる項目）に肯定的回答をした生徒の割合である。

#### ○「自分にはよいところがあると思う」

	平成29年度 県学力調査	平成30年度 県学力調査	平成31年度 全国学力調査
現3年生	66.7%	69.4%	69.3%
現2年生	—	68.6%	—

- 「自分の努力はまわりの人から認められていると思う」（県学力調査）  
 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」（全国学力調査）

	平成29年度 県学力調査	平成30年度 県学力調査	平成31年度 全国学力調査
現3年生	54.4%	60.2%	75.0%
現2年生	—	70.7%	—

- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」

	平成29年度 県学力調査	平成30年度 県学力調査	平成31年度 全国学力調査
現3年生	93.3%	93.2%	95.4%
現2年生	—	97.0%	—

調査時期の関係により、全ての学年の変容を数値結果から見取することはできないが、本指定事業の2年間を本校で学校生活を送っている現3年生については、1年時よりも数値がよくなっている。このことから、自己有用感を高める様々な取組の成果が実を結びはじめていることがうかがえる。他者や集団とのかかわりの中で、「自分の努力は認められている」「自分にはよいところがある」と生徒達が自分自身を価値ある存在として認め、自分に自信をもつことで、さらに「人の役に立つ人間になりたい」と思う好循環が生まれていると感じる。

しかし、現段階で見えている課題も多々ある。本校における研究はまだ実践の途中であり、これまでの取組を十分に検証し、次年度につなげていきたい。「安心して自分の思いを表現できる」生徒の姿を期待し、自己有用感の育成に有効であった取組を今後も継続、充実させていきたい。

## <参考：アンケート調査結果より>

- 「アンケートQU」（質問項目）「授業の内容は理解できる」

	現1年生	現2年生	現3年生
平成29年度10月	—	—	49.5%
平成30年度 6月	—	77.8%	55.0%
平成30年度10月	—	56.1%	46.1%
令和元年度 6月	71.6%	64.6%	66.6%

- 「アンケートQU」（質問項目）「勉強や運動等で友人から認められていると思う」

	現1年生	現2年生	現3年生
平成29年度10月	—	—	51.1%
平成30年度 6月	—	70.7%	49.5%
平成30年度10月	—	61.6%	48.9%
令和元年度 6月	65.5%	60.4%	52.2%

○「アンケートＱＵ」（質問項目）「学校内で私を認めてくれる先生がいる」

	現１年生	現２年生	現３年生
平成２９年度１０月	—	—	３６．６％
平成３０年度 ６月	—	６１．２％	４６．２％
平成３０年度１０月	—	５７．６％	４１．１％
令和元年度 ６月	６０．５％	５６．２％	５０．０％

○「アンケートＱＵ」（質問項目）

「人と仲良くしたり、友人関係をよくしたりする方法を知っている」

	現１年生	現２年生	現３年生
平成２９年度１０月	—	—	５１．１％
平成３０年度 ６月	—	７５．８％	５９．４％
平成３０年度１０月	—	７２．７％	６０．７％
令和元年度 ６月	５８．０％	６０．４％	６０．０％

○「アンケートＱＵ」（質問項目）「自分もクラスの活動に貢献していると思う」

	現１年生	現２年生	現３年生
平成２９年度１０月	—	—	５５．５％
平成３０年度 ６月	—	７０．４％	５５．０％
平成３０年度１０月	—	６５．７％	５０．０％
令和元年度 ６月	６３．８％	５５．２％	６３．３％

○「アンケートＱＵ」（質問項目）「クラスの人から無視されることがある」

	現１年生	現２年生	現３年生
平成２９年度１０月	—	—	１２．２％
平成３０年度 ６月	—	４．０％	４．４％
平成３０年度１０月	—	２．０％	３．３％
令和元年度 ６月	７．４％	４．１％	３．３％